

# 会 議 録

## 1 会議名

平成26年度第4回諏訪区地域協議会

## 2 報告事項（公開・非公開の別）

・市街地調整区域の住宅建築に関する制度改正について（公開）

## 3 議題（公開・非公開の別）

・諏訪区の定住人口の維持増加に向けた今後の展開について（公開）

## 4 開催日時

平成26年10月8日（水）午後6時30分から午後8時05分まで

## 5 開催場所

公民館諏訪分館 集会室

## 6 傍聴人の数

0名

## 7 非公開の理由

なし

## 8 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：秋田ひろ美、池田義二、猪俣一夫、内山松男、金森光則、川上文雄、川上義人、滝澤隆行、寺田晴夫、古川正美、星野一巳、松縄節子
- ・事務局：中部まちづくりセンター 北島センター長、恩田係長、小林主事
- ・都市整備課：佐藤副課長、西森主事

## 9 発言の内容

### 1 開 会

#### 【恩田係長】

定刻になりましたので、平成26年度第4回諏訪区地域協議会を開催いたします。本日の出席人員は12名、全員からご出席いただいています。上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席がありますので、会議が成立することをご報告します。

### 2 会長挨拶

#### 【恩田係長】

はじめに、古川会長からご挨拶いただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

**【古川会長】**

皆さん、お疲れのところ大変ご苦勞様です。會議は久しぶりでございますが、8月28日には視察研修ということで、8人で行って参りました。その時の話は、また後でさせていただきますが、大変有意義な視察研修だったと思います。

それでは、限られた時間ではありますが、會議をこれから始めさせていただきますので、よろしくお願ひします。今日は、都市整備課から来ていただいていますので、説明を聞いてから、皆さんのご意見を聞いていきたいと思ひます。

**【恩田係長】**

ありがとうございました。それでは、上越市地域自治区の条例第8条第1項の規定により、会長から議長を務めていただきます。よろしくお願ひいたします。

**【古川会長】**

以降の議事進行を務めて参ります。終了時間は、概ね午後8時頃と予定しておりますので、スムーズな進行にご協力をお願いします。本日の會議録の確認者ですが、名簿順により星野委員をお願いします。

**3 報告事項**

- ・市街化調整区域の住宅に関する制度改正について

**【古川会長】**

それでは次第に沿って進めます。次第3の報告事項です。「市街化調整区域の住宅建築に関する制度改正について」都市整備課から説明をお願いします。

**【都市整備課：佐藤副課長】**

都市整備課の土地利用の担当副課長を務めております佐藤と申します。今日は説明にお邪魔させていただきました、よろしくお願ひします。私の他にもう1人、窓口で主に市民の皆さま方のお問い合わせを担当させております、西森も一緒に参っておりますので、後で説明させますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

**【都市整備課：西森主事】**

西森と申します、よろしくお願ひします。

**【都市整備課：佐藤副課長】**

諏訪区の皆さま方におかれましては、日頃から諏訪地区の将来像を色々ご議論い

ただく中で、地域の様々な課題についてご議論いただいていることに関しまして、改めて敬意を表するものでございます。

昨年の5月29日に、一度お邪魔させていただいて少し説明をさせていただきましたが、昨年の5月以降の流れを踏まえて今、どういう形で進んでいるのかという辺りを中心に説明をさせていただければと思っておりますので、よろしく申し上げます。

それでは、概略を担当の西森から説明させますので、まずお聞きいただければと思います。お願いします。

**【都市整備課：西森主事】**

—資料に基づき説明—

**【古川会長】**

ありがとうございました。諏訪地区でも3か所で説明会を開いてもらったということなのですが、その時出られない方もいらっしゃったと思います。1回聞いても分かりづらい部分があったり、都市計画という耳慣れない話ですから、これから皆さんから質問していただきます。ダブる話もあるかもしれませんが、よろしく申し上げます。

**【都市整備課：佐藤副課長】**

よろしく申し上げます。

**【古川会長】**

それでは、只今の説明を受けて何か質問はありますか。お聞きしたいことがあれば、お願いしたいと思いますが、どうでしょう。

事務局から、地図を貼ってもらったのですが、ピンク色で囲ってある所が、説明の中で建物を建てられる所だそうです。諏訪地区にある集落の中であれば、ほとんど建てられると理解してもらえばよいと思います。諏訪小学校の前の畑はちょっと外れている。白くなっていますので、対象から外れるようです。その辺は先程聞いたのですが、考えられることもあるということですか。建てるとしたら一番良い土地かと思うのですが。

**【都市整備課：佐藤副課長】**

区域の設定に関しては、あまり拡大することは好ましくないだろうという考えがありました。地域説明会でも、「ここはもうちょっとなんとかならないか」というお話がありました。やはり地域地域のお考えもあるのだと思っておりますので、そういう所は柔軟に、これで固定して区域が変わらないというわけではございませんので、そこ

はご相談させていただいている部分もあります。

もう1点、会長さんのほうで赤い枠の中は大丈夫ですよというお話をいただいたのですが、青い所は「農業振興地域」ということで、農振地域の除外は駄目ですよということを条件にしているのですが、赤い囲みの中であっても、農地転用が必要な場所も中にはまだあるのですね。田んぼに近い所で。農振地域ではないけど、農地になっている所。あるいは圃場整備をした所と田んぼが一体になっていた場合には、そこは農地転用が認められない場合もあるそうです。ですから、まずは囲みの中に入っていないければ駄目なのですが、囲みの中に入っていたとしても、場合によっては農業委員会の判断で農地転用ができないという所があるという話を聞いていますので、個別にご相談をいただくような形になるのかなというふうに思います。

【古川会長】

皆さん、これを見て何か質問してみたいというようなことはありますか。

【内山委員】

農業委員会でする宅地に転用する手続きは変わるのですか。

【都市整備課：佐藤副課長】

農業委員会でする手続きは今までと実は変わっていません。都市計画の方で今まで土地利用ができませんよと言ってきたものが一定程度はよいですよという形にしたのですが、農業委員会は農地を守らなくてはいけない立場ですから、農地転用が必要になります。それは従前と変わっていません。

【内山委員】

家屋敷を持っていても、住宅を建てる土地は宅地で、残りは畑とか。

【都市整備課：佐藤副課長】

そうですね。

【内山委員】

そういう人は多いですね。

【都市整備課：佐藤副課長】

そうですね。課税上の話もあるのでしょうか。今後、例えば内山委員が持っている土地に、私が「内山さんの土地がよいし、おら住みたいし土地譲ってください」という事になれば、まず農地転用は農家の方じゃないとできませんよね。要は農地を取得できませんよね。私が農家でなければ農地を手に入れることができないので、まず農地

転用していただいてから、売買契約で私の土地になって、それから手続きをして建っていくというような形になると思います。

【内山委員】

今年うちの町内に外から人が入って来たのですけれども、宅地の中に残っている畑。元の主は、全部売りたいのですけど、農地の所は…。

【都市整備課：佐藤副課長】

駄目なんですよ。

【内山委員】

田んぼをやっていないと買えない。

【都市整備課：佐藤副課長】

そうなんですよ。農地法で5反歩以上持っていないと、農地取得できませんからね。

【内山委員】

それで、元の方は、元は田んぼがあったのですけれども、今は売っちゃって無いのです。その辺、ちょっとおかしいなと感じます。

【都市整備課：佐藤副課長】

確かに、農地法と都市計画法というのは表裏一体の部分もあってですね、内山委員の仰るように、農地を持っていないのに、まだその人の権利が残っているような状況が生じることもある。そこは制度の上手くない所というか、私どもも何とも言うてみようもない農地法の部分がありますから、何とかならないかという思いはあります。説明会でもそういう話がありました。やはり豊かな環境の所に来るのだから、畑や田んぼもちょっとしながら、でっかい敷地で住みたい人もいるだろうと。農地も買うことはできないか、という話もあったのですが、都市計画の関係からは何ともし難い話なものですから、そこは他の手段を講じないと解決策にはならないだろうとは思っています。ご回答になっていなくて、申し訳ないのですけれど…。

【内山委員】

もう1つ教えてください。まだ先の話ですが、うちの町内は圃場整備で、まだ換地までは終わっていないのですけれども、将来的には町内の畑を集めて、私はそこに将来子供に家を建てさせたいということで、雑種地の手続きで、進めてもらっています。これも、換地が終わった時に仮に雑種地として認められても家は建てられないということになるのですか。

【都市整備課：佐藤副課長】

圃場整備の計画の時に、雑種地にしてどういう利用計画にするかというのは、多分明らかにされているのですね。私が心配しているのは、圃場整備をやるということは、補助金なり何なりかが入っているわけで、それが宅地に転用して家を建てるというのが予め理解を得られているのであれば、オッケーだと思うのですが、そこはちょっとどうなのかなというのはちょっと気になりますね。土地改良区さんですか、今圃場整備をやられているのは。

【内山委員】

そうですね。

【都市整備課：佐藤副課長】

土地改良区さんにご相談いただいた方が、安心、確実かなとは思いますが、私どもとすれば、農地であっても、農振から外さなくて農地転用ができるのであれば土地利用はできますよ、というルールにはしてありますので。あとは、農業サイドの方で圃場整備で囲んだ創設換地というか雑種地の扱いをどうするかというのは農業サイドの判断が入ってくると思います。

【内山委員】

土地改良では最初の時に、将来子供に譲りたいということで、家を建てるなら畑よりも雑種地にしておいた方がよいですよというご指導をいただいたものだから…。

【都市整備課：佐藤副課長】

圃場整備の区域に入っていますか。

【内山委員】

圃場整備です。

【都市整備課：佐藤副課長】

入っているのですか。そうだと、ちょっと厄介かもしれないですね。

【内山委員】

それは難しいのですか。

【都市整備課：佐藤副課長】

農業委員会に聞きながらの回答になるかと思います。よろしければ、明日以降に農業委員会に確認しておきたいと思います。

【内山委員】

よろしく申し上げます。

【古川会長】

他にいかがですか。

【都市整備課：佐藤副課長】

なかなか今も住まわれている皆さん方からすると、ピンとこない部分もあるかもしれないですね。窓口にお越しになる方からは、ここにはもう親もいないし、自分も今はここに住んでいないのだけれど、土地だけ持っている。親戚や近所の人から聞いたけれど、どうやったら使えるのかというような話がいくつかありました。なかなかそこに住んでいる方にとっては、この制度が始まったからといって何が変わるのかといえば、普段の生活の中であまり変わる事はないですね。

【古川会長】

そうですね。

【都市整備課：佐藤副課長】

むしろ、隣に空き地があったのが、いつの間にか家が建っていて、何か知らない人が住んでいるという方が多分気になるところなのかなと思っています。実際、説明会の中で、来てもらっては困るという町内もありました。せっかく農村部でコミュニティを築きあげてきたのに、今さら外から人が入ってきてもらっても困るという話もありましたけれども、確かにそういった部分の問題もあるようです。空き家に知らないうちに人が入って来て、地域のルールも守らないでゴミ出しのルールも守らないという話も実はあります。遠い所の話ではなく、上越市内でもあるようです。

ですから、そのような話を聞いた中で私どもが新しい制度を使う場合には、ちゃんと町内会長さんの所にお邪魔をして、こういう理由で土地利用をしたいんだという事でお話をした時に、町内会長さんから「私達の地域のルールってこういうのあるんだよ。あなた、これで私達の仲間になれるよね。」という話をちゃんと聞いた上で、住宅建設してくださいというお願いは、するようにしています。

【古川会長】

それは、一番大事ですよ。最近、保倉地区のあちこちに「ここに家が建てられます」「この地域に家が建てられます」という看板がいくつか建ちました。あれは、この制度に則ったものと聞きました。

【都市整備課：佐藤副課長】

3月15日号の広報上越には新しい制度について掲載させていただいたのですが、なかなか広報を隅から隅までご覧いただけるわけではありません。私どもの案内が不足しており、すいませんでした。

【古川会長】

あの看板に興味を持っている人が見たら、ちょっとというような感じになりますね。

【都市整備課：佐藤副課長】

そうですね、今日も案件が回ってきましたけど、浦川原から保倉の方に出て来られた人の届け出が1件ありました。昔から、東頸城から信越化学さんですとかそういった三交代勤務の所に勤めるのだけど、冬になると心配だからということで保倉の方に住まわれた方も多かったらしいですね。

【古川会長】

そうだと思いますね。やっぱり、そういうように思っている人も多分いると思うので、保倉だけと思われないように、諏訪も大丈夫なんだということを発信する必要があるのかもしれないですね。

【都市整備課：佐藤副課長】

逆に、今会長さんが仰られたように、地域の皆さま方に周知が足りないとなれば、機会を見つけながら私どもは情報発信しなければいけないのかなと思います。

【古川会長】

我々が自主審議でやっているのは、それが一番メインで、なんとかこの減っている人口を少しでも維持、もしくは少しでも上げたいということです。そのためには説明いただいたことが力になる。空いている土地を少しでも活用して、町内に入ってコミュニティに交わってくれる人がいてくれれば助かると思っています。

【都市整備課：佐藤副課長】

こういう言い方を行政がすると、お叱りを受けるかもしれないのですが、頑張られた地域がやっぱり注目を浴びるのかなというように思います。全国的にも、外から人が沢山入ってくる所は、地域の人が積極的にどうぞということで情報発信されたり、いろいろな知恵を絞りながら地域の将来を外に示すことによって、それを魅力と感じていただける方に選んでいただけるという部分もあるかと思っています。

前回お邪魔した時にもお話したと思いますが、諏訪区は非常に圃場整備が進んでいます。ここから眺める妙高山や南葉山、私は凄く好きなんです。私は山の人間でした



ので、広い所に住みたかったのですが、その時はまだ制度が変わっていませんでしたので、残念ながら町の中にいるのですけれど、今でもこういう豊かな環境で子育てが出来たらよいなという気持ちを持っています。若い世代はなおさらそういう思いは強いですから、少しでも地域の方がこれをきっかけにして諏訪の将来像を、地域の皆さんと色んなご議論していただければ、私どもも制度をご用意した甲斐があったかなというように思います。

【古川会長】

ありがとうございます。皆さん質問はありませんか。

【星野委員】

先ほどの保倉区に「家が建てられます」という看板なのですが、保倉地区で建てたのですか。

【都市整備課：佐藤副課長】

あれは保倉地区の皆さま方が、「定住化対策会議」というのを設けていらして、そちらの会の方々が「地域活動支援事業」をご活用になられて、看板とチラシを作られました。まずは保倉の人に知ってもらおうということで、保倉の全戸にチラシを配られました。市内では、保倉区と諏訪区の皆さん方が、定住化に関して凄く熱心に取り組まれています。

【古川会長】

他の機会に聞いたことがあるのですが、全国では人口が減っている所ばかりでなくて、人口が増えている小さい市町村もあるのだそうです。全国でも3つか4つと言っていました。やはり、そこは住んでいる人が一生懸命なんだそうです。副課長さんが言われたとおり、一生懸命にやっている所は何らかの形で実を結んでいるということです。やはり一生懸命やっていたら良い事があるのかなと思います。

【都市整備課：佐藤副課長】

諏訪区は町場から近く、環境的にも凄く恵まれた地域だなと思っています。

【古川会長】

それが、地元に住んでいるとそう思わないこともあるのですね。有難みが分からないというか…。

【都市整備課：佐藤副課長】

そうですね、自分の所を振り返るというのは、なかなか難しいですよ。よその家

の芝生は良く見えるというのと一緒に…。さっき申しましたが、諏訪の良い所は沢山ありますから…。

【古川会長】

我々はそういうふうにいる人がたくさん居るのですが、若い世代がどういふふうにいるかということは、若干不安もあるのです。ただ、諏訪のことをいろいろと発信していけば、将来に繋がって行くのじゃないかと思うのです。

【都市整備課：佐藤副課長】

是非とも、次の世代の方達のためにも、よろしくお願ひしたいと思います。

【古川会長】

分かりました。皆さん、どうでしょうか、他に質問はありませんでしょうか。よろしいようなので、この辺でよいかと思います。ありがとうございました。

【都市整備課：佐藤副課長】

お帰りになられまして、今日のお話が出ましたら、都市整備課にお気軽にお問い合わせいただければ、またご説明させていただきます。

【古川会長】

是非、そういう機会が早く来るように頑張りたいと思います。

【都市整備課：佐藤副課長】

よろしくお願ひします。

【古川会長】

ありがとうございました。

—都市整備課職員退席—

#### 4 議題

- ・諏訪区の定住人口の維持増加に向けた今後の展開について

【古川会長】

それでは、次の議題に入って行きたいと思います。前回の会議から少し時間が経ってしまっていますので、少しおさらいをさせていただきますが、「諏訪の未来を考える懇談会」と題した意見交換会を2月と4月に2回開催しまして、地域の皆さんから集まっていたり、ある程度の手応えがあったことと思いますが、懇談会の中で若年層の参加が充分でなかったというご意見や、若者層の意向をもっと聞きたかったというご意見があったことを踏まえまして、今後の展開方策を改めて考えて行きましよう

ということになり、その参考になればということで、8月28日に旧川口町と小千谷市へ研修に行って参りました。その施設研修について、皆さんに掻い摘んで説明させていただきたいと思います。

視察は2か所でしたが、まず1か所目の午前中は、旧川口町の「きずな館」に行って参りました。そこでは、NPO暮らしサポート越後川口の赤塚事務局長さんから、取り組まれてきたまちづくり活動と地域住民の意向を汲み取るために実施されたアンケートの調査のプロセス等を聴講し、意見交換をして参りました。

2か所目の午後は、小千谷市の「そなえ館」に行き、地震の被害と復興を伝える展示物の案内を受けながら、自然災害に備える心構えや、地域ぐるみで行う対応策等について聴講してきました。その2か所だったのですが、私たちが普段聞けないような内容を聞くことができたということで、皆さんもいろいろな感想を持っておられました。

帰りの車内で皆さんから感想をお話しいただいたのですが、例えば、我々のような年の者がいくら若い人に呼び掛けるよりも、若い人達が若い人達を呼ぶというような話がありました。それから、NPOという組織に対し、何か胡散臭いというイメージを持っていただけても、具体的な運営手法などの説明を受けたおかげで、胡散臭いものではないことがよく分かったというような話もありました。また、まちづくり活動に対して感度の高い人、そうでない人がいるのは、どこの地域も同じであり、ある程度の割り切りも必要だと感じたという話もありました。防災に関しても、被害を減らすための様々な気づきがあったということをお話された方もいらっしゃいました。その様なことを帰りの車内で話合いながら帰ってきたのですが、いろいろな意味で意義のあった研修だったと思いました。

先ほどお話ししたアンケート、今日の配布資料にもありますが、視察を受け入れていただいたNPO法人が実施されたものです。諏訪地区でも、今まで意見交換会を2回やったのですが、それだけでは、掴みきれないところもありました。また、参加されなかった人の意見を聞くにはどうしたらよいのかというようなこともありましたから、こういうアンケートについて、本当に良い取り組みだなと感じている人もたくさんいらっしゃいますから、私達もアンケートを実施できたらと考えています。

今日は、この視察研修を踏まえて、我々が定住化に向けた話し合いをしていく中で、どういう方向で進んでいけばよいのかを、皆さんと話し合っていければよいのかなと

思っています。

#### 【恩田係長】

皆さんのお手元の「第2回会議（6月18日開催）の配布資料」をご覧いただきたいのですが、古川会長からお話いただいたとおり、6月の会議の時点では、この資料中の案1、案2、案3ということで上がっていて、少し歩みを止めている状態です。本日は視察研修の結果も踏まえて、次にどのようなステップを踏んで行こうかということ、皆さんで話し合っていたきたいと思います。

会長からは是非アンケートをやってみたいという発言をいただいたところなのですが、その他のお考えをお持ちの方もいらっしゃるかと思います。研修に参加されていない方にとっては、少し掴み所が無い部分もあろうかと思うのですが、今後進んでいく方向性が今日の会議で概ね固まれば、次回は具体の検討に入っていけるのかなと考えます。

#### 【古川会長】

事務局から説明していただいたとおり、これから皆さんと話合っていきたい、今後の方向付けをしていきたいと思っておりますので、ご意見をいただきたいと思っております。これまで懇談会を2回実施し、3回目もやって欲しいという話もあったと聞いていますが、少し手法を変えて、いつもと違う人の意見も聞いてみる必要があるのかなというように私は感じています。

皆さんからもご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

#### 【川上副会長】

資料の案1、2、3を見ますと、参加しやすい開催日程とか、若年層のみを対象とした懇談会を開催するというのがあるのですが、過去の2回を振り返りますと、あまり資料がないのに集まっても仕方がないというのがある。だけれども、アンケートで、単に良いとか悪いとかでは、今後の検討資料にはならないなと思っていたのですが、研修に行かせていただいて、家族に1枚でなくて、住民全員にアンケートを配って、しかもアンケートの内容は地域住民で考えて作ったという話をされていました。そういうことをしていかないと前へ進んでいかないのかなというふうに思いました。

それから、バスの中でも話したと思うのですが、今までは、受け入れる側の立場でしか見ていなかったのですが、今度は逆の立場、入って来たいと思う外部の人達の立場、反対側から見るのもよいのかなというようなことも思いました。この地域はこ

ういう魅力があるから来たんだというようなことを言っておられた職員もいましたので、逆に考えることも1つの方法だなと思いました。アンケートはそういうようなことも考えながら作っていければ、資料の1つになるかなと思ってきました。

#### 【星野委員】

諏訪地域というのは、非常に中途半端な地域だなと感じられるのです。山間地なら山間地で、それなりの魅力がある。町場なら町場でということですが、諏訪地域はちょうど真ん中で、どちらつかず。例えば補助金とか助成金、そういうものがなかなか付きにくい地域というように思うのです。

川口は山間地で雪も多い所、しかも地震があって復興しなければいけないという非常に厳しい状況の中で、良い人が現れてくれたおかげで、NPOを立ち上げて、生き生きしているなと思いました。帰りのバスの中でもずっと考えていたのですが、地道に1つ1つ話合って何とか突破口を開けられないと諏訪の未来は無いなと思い、帰ってきたわけなのです。

とりあえずは、住民の皆さんがどういうふうに思っているのか、そういうものを把握するためにも、いかに多くの人を巻き込むかという面で、こういうアンケートはよいと思うのです。これを作る上においては、上から目線ではなくて、入ってくる立場の目を持っていくことも、本当に大事だなと思います。川口町で実施したアンケート等を活用すれば、たくさんの意見を吸収できるのかなと思います。少しでも参加することによって、関心を持ってもらえる、人事じゃないなというふうに気づいてもらって、皆で力を合わせようというようになっていくのかなと思っているのです。

#### 【寺田委員】

皆さんが仰ったとおり、一度諏訪地区でもこういうアンケートを採ってみて、皆さんから集まってもらって結果を発表する。諏訪がどういう状況かを把握するために、こういったアンケートを採ったほうがよいと思います。

#### 【滝澤委員】

このアンケートを見させてもらうと、なかなか細かく色々書いてあるので、アンケートをやったらよいな、というのは確か前にも言ったと思いますが、出来るだけ多くの年代からアンケートを採って、データーを採った上で懇談会を開けるようにした方がよいと思います。早目に作って採った方がよいかなと考えています。

それと、今ホームページもやらせて貰っているので、アンケートに併せてホームペ

ージでも諏訪の人、諏訪の外の人分かる様にするというのも、やっていければなど考えています。まずはアンケートを先行して、懇談会を開くという方向でやって行ければよいと思います。

**【川上委員】**

皆さんの出された意見と同じです。

**【金森委員】**

私たちの組合でもアンケートを採って、その結果が貼ってあったので見たのですが、予想以上、また予想外の回答もあったのですよね。

懇談会の開催があるんだといっても、日程的に合わなかったり、年配の方だとその時間はもう一杯やっちゃったりしておられる方もいられるので、是非ともアンケートをやった方がよいと思います。

**【古川会長】**

懇談会を開くのもよいし、集めた結果をまた皆さんで周知する。これを皆さんに見てもらうのも本当によいことだと思います。「こういうふうを考えている人がこんなにいっぱいいるんだな。」「おらばっかりじゃないんだな。」と思う様になれば、よい話だと思います。

**【内山委員】**

私も皆さんが言っておられていることと同じなのですが、あとは以前、市でもアンケートを採られたのですが、その中に「どちらでもよい」という中間的な回答は、今回アンケートを採る時には無しにした方がよいと思います。どっちかにすれば、ハッキリ細かい答えが出て来ると思います。川口町は割あいと細かいのが出てきています。諏訪地区とも状況が似通っているのかなと思っています。

それと、諏訪の人口を増やすということで、身近なところからいうと、独身が多いので、縁結びも大事じゃないのかなと思います。大変だと思うのですが、本人達にそういう気持ちを起こさせるという意味でも縁結びも大事だと思いますので、そういう所も考えた方がよいのじゃないのかなと思います。

**【猪俣委員】**

私もね、そういうことだと思います。諏訪地区は戸数が以外と減っていないんですね。それと、空き家がある、そこへ比較的入って来られる方が多い。人口が減ると、戸数も減ることだと思うのですが、戸数が減っていないということは、そこは

何かあるのかなと思います。それで、私の提案なのですが、この地区に入っただけのためのアンケートだと思うんですが、実際かなりの方が入ってこられているわけですね。こういう方は、どういう思いで入って来られたのか、こういうふうな事を不便に感じているとか、実際入って来られた方にアンケートで聞いてみたいです。本当に戸数だけはあまり減っていないです。そういうところに、少し何か考えられるところがあるのかなと思います。どこの集落でも同じような状況だと思うのです。入って来られた方に聞いた方が、解決の何かが出るのかなというように私は思います。

**【池田委員】**

私はどちらかと言えば、考えが古いというか保守的な方なので、まずはアンケート採ってもらってから、懇談会に集まってもらおう。順序はアンケートが先の方がよいと思います。

**【秋田委員】**

若い人の意見を直接聞いてみたいという思いは変わらないのですが、現実を考えると難しいと思いますので、その点でアンケートというのが、一番よいかなと思います。このアンケートを見て、とても良い内容なのですが、もうちょっと少なくして、簡単に答えてもらえるように、煮詰めた方がよいかなと思います。

川上副会長が言われたように、外から来た人の意見を聞くというのはよいと思います。私達も、お嫁に来た立場で外から来たということには変わらないのですけれども、土地に惚れてきたわけではないので、本当に純粋によい意見だなと感じました。

**【古川委員】**

ありがとうございます。皆さんからご意見いただきました。まとめてみるとアンケートをやった方がよいという人が多かったと思いますので、その方向で皆さんと話合っていければよいのかなと思います。できれば視察させてもらった川口のアンケートをある程度たたき台にさせてもらって、それから諏訪として、どうしても入れるものは入れたり、これは要らないのじゃないのというものは、間引いたりして、数も少し減らしてもよいのかなと思います。

それと、これまで出て来ない人の意見も聞くのは本当に大事なことと思います。皆さん、アンケートを実施して、その後に懇談会などでアンケートの結果を発表するという形がよろしいでしょうか。

(よしの声)

いつ頃からという事も、これからご意見いただきたいのですが、地域協議会としては、市からも諮問も当面ありませんし、新年度の支援事業関係の話も少し先にできますので、今は定住の関係1本で行けます。次回会議は1か月くらい先になります。

それまでの間に、いつ頃このアンケートを出して、回収はいつ頃という大筋の目途を作って、アンケートの内容を詰めていければとよいかなと思います。私としては、できれば年内に出して、年内には回収。そして、新しい年にはそれを、題材にして会議、そして懇談会、いつ頃やるかを検討していけば、新年度に向けた材料が出来るんじゃないかなと思うのですが、皆さんご意見どうでしょうか。

【内山委員】

回収して集計するのは誰がやるかというのは…。

【古川会長】

回収率もあるのですが、今250戸くらいですね。それで、1戸1枚でないで、1,000枚位になるかも知れません。川口で実施したアンケートは半分まで集まっていないのですよね。

【恩田係長】

25パーセントです。4分の1。

【古川会長】

4分の1しか集まらなかったという事ですが、諏訪地区はもうちょっと集まるんじゃないかなと私は思うのです。少なくとも半分、500位は回収できないかなと、なかなか全体の意見というのは集約できないのかなと思いますので、その辺を目標にしたいと思います。

来月もう1回会議をやる予定で皆さんと協議したいのですが、その時、一応たたき台みたいなものを皆さんと一緒に考えていければよいのかなと思います。それで、次回の会議で、大体内容を確認してもらったし、これで行こうとか、これにもう1つ追加してくださいなどの話が出来れば、それを追加して12月に向けて配布して12月中に回収という形はどうかと思うのです。皆さん、ご意見どうでしょうか。

【川上委員】

今の予定でよいと思います。できれば、早いほうがよいですね。

【古川会長】

できれば、年内に集め、年内に集計まで行ければと思います。日程的に無理かどうか



かは分かりませんが。あまり時間をかけても集まって来ないと思いますので、やっぱり2週間程度の期間、忘れないようにすぐ書いてもらうということをしてもらえれば、案外集まるのかなと思います。皆さん、それでよいですかね。

(よしの声)

事務局はどう思いますか。

**【恩田係長】**

普通アンケートというと、コンセプト作りに時間がかかります。川口でも何回ものワークショップをやって、やっと出来たと聞いていますけれども、それは時間的になかなか難しいかと思います。そういうことで、良いものは真似したいと思いますので、この川口のアンケートをベースに皆さんで練っていただければと思います。アンケートの実施にあたっては、情報発信であるとか、アンケートの配布、回収等々を多大なご負担をどなたかに負っていただく必要がございますし、町内会長様方にもご理解いただきながら、協力いただかないとなかなか実を結ばないかと思いますので、その辺りのご協力をいただけるのであれば、年内の実施も現実的になってくるかと思います。次回会議では、今日皆さんからご発言いただいた事を踏まえながら、ある程度のたたき台、そういうものをお示しできるように、資料作りに向かわせていただきたいと思います。

**【古川会長】**

例えば、皆さんから書いてもらってFAXを送るとか、次回までに事務局さんにご連絡いただきたいと思います。

**【恩田係長】**

是非、アンケートで聞きたいことを、電話でもFAXでもお手紙でもどんな方法でも構いません。事務局にお伝えいただければ、皆さんで揉んでいただくネタになります。アンケートはあまりボリュームが大きすぎても駄目ですから、最終的には取捨選択していくことになると思いますが、ネタが多ければ多いほど良いものが出来てくると思いますので、お願いしたいと思います。

**【川上委員】**

インターネットいつ解放するのでしょうか。我々みたいな年寄りはありません。若い人はホームページを見ますよね。ホームページからも発信できるようになると、若い人たちが見る…。私、ホームページに期待しています。例えば、先

ほどの懇談会の日程もインターネットでやれば、若い人が出られる日程が見えて来ると思います。年寄りの日程ではないですよ、我々はある見ないからね。ほとんどの若い人はスマートホンだとか持っているんだから…。そういうふうなことができる、非常によいと思います。せつかくのホームページ、そういうのは載せられないものですか。

【滝澤委員】

できます。

【川上委員】

若い人を集めるならそれですよ。紙じゃない、ネットと私は思います。

【古川会長】

原文ができれば、それを載せてそれにアンケートに答えてもらうこともできると思います。

【滝澤委員】

運用は11月の末で考えているはずですよ。内容的なものは、どうにでもなるので、アンケートを載せてと言われれば、できます。

【古川会長】

それで今まで拾えなかった意見が拾える可能性は充分ありますよね。間に合うタイミングであれば、載せてもよいと思います。

【川上委員】

それも視野に入れて、考えた方がよいと私は思います。

【古川会長】

年内に回収するとなるとちょっと間に合わないかもしれないので、一応紙では配る方向でいきたいと思いますが、ホームページでも合わせてできればよいですね。

いろいろなご意見をいただけるのは、ありがたいことです。意見がありましたら、事務局にFAXでもよいし、メールでもよいし、お願いしたいと思います。事務局の方でダブっていたら精査してもらって、次回の会議にはたたき台を皆さんから見てもらえるような形になればよいと思います。そのような形で、まず、アンケートを採って、懇談会に進む。それから、それを地域の皆さんに結果を発表していくという形になるかと思います。

先程の内山委員から提案いただいた集団お見合い、縁結びのようなものを開催した

ら出る出ないというような質問もよいかと思います。そういう質問もありかなと思います。チャンスですので、いろいろな情報をアンケートで集められればと思います。

## 5 その他

### 【古川会長】

それでは、次回の会議日程について決めて行きたいと思います。

—日程調整—

次回の会議は11月12日（水）午後6時30分から諏訪分館で行います。

### 【寺田委員】

新道区の人はどこ視察に行くのですか。

### 【恩田係長】

新道区と春日区と合同で視察に行くのですが、長野県の小川村。それと、中野市です。後日、皆さんへも紹介したいなと思っています。

### 【川上副会長】

今の小川村もそうですけど山間部ですよ。昨年に私達が行ったのも山間部ですよ。諏訪のような場所、何にも特長がないような所で凄く活性化していいような所はないものですか。都会からどこか田舎へ移住したいなってことになると、諏訪には目玉になる所が何もなし。都会でもないし、山でもない、そのど真ん中。参考になる所がないかなと、前から思っているのです。

### 【恩田係長】

テレビなどで多く紹介されているのは、ある意味珍しいから紹介されているという部分があると思います。豊かな平場に移住しても、多くの方が興味を覚えないと思うのです。新規就農で地域活性化というような話で、今まで農業に何も関係のなかったサラリーマンの人が農業始めたという話がよく紹介されますが、多くの方は、埼玉とか群馬とか、都市近郊の恵まれた畑作地だろうと思います。田んぼは、それなりの設備投資やクリアしなければならない条件が沢山ありますが、畑作であれば、比較的手軽に始められる。割合の数字は分かりませんが、都市近郊の豊かな農地、肥料などで土壌改良をたくさんしなくても作物を作りやすいような土地に多くの方が根付くのだと思います。ただ、そういうのは注目されにくい、そういうことだと思います。

### 【川上委員】

ここは、雪が多いです。3分の1は冬眠している様なものじゃないですか。畑

作をやりたいなら、土地が使えないわけですよ。それと、さっき言った目玉をこれから作らなくちゃいけないわけですよ。赤ちゃんが生まれたりお祝いをやるとか、田んぼを1町歩貸してやるから来てくれとか、そういうような田んぼはいっぱいあるんだから…。これから専業農家はどんどん減っちゃう、田んぼをどうするかという時に、担い手、手伝ってくれる人が来てくれれば、よいと思うのです。そういった何か目玉を作らないと、なかなか外から見てくれって言っても、見てもらえないのじゃないかなと思います。

**【川上副会長】**

ホームページ、そういうので外部に発信していかないと、見る側からすると、何もないんですよ。それを必死に考えているんだけど、参考になるようなものは何かないものですかね。

**【寺田委員】**

山古志は山だけど、「牛の角付き」がある、「アルパカ牧場」もある。大したものだよ。

**【寺田委員】**

それで、メディアでもやるから、余計みんな行くんだよね。

**【川上副会長】**

妙高みたいにスキー場があれば人が来るけれども、ただ雪がたくさん降るだけで何もない。猛吹雪しかない。

**【松縄委員】**

うちの長男が「二貫寺ノ森」に行って感動したと言っていました。二貫寺ノ森を説明してくれた先生がとてもよかったのだと思いますが、渡り鳥がそこで休んで、旅立つ、色々な種類の鳥がいて感動したと言っていました。

それと、テレビでもやっていたけど、例えば諏訪へ美味しい冬野菜を食べに来ませんかとか、そういうことで、アピールしたらどうかかと、私は思っているんです。

**【古川会長】**

この前、私の知り合いの十日町の人が、もう家に誰も住まなくなったから壊すと言っていたんですよ。壊すのに100万円位かかるから困っていたそうですが、そうしたら、少しの金なら出してもよいから譲ってくださいと、40歳位の女の人が出て来た。「何をやるんですか。」と聞くと「民宿をやろうと思っています。」ということな

んです。山の集落の1軒屋ですよ。そういうことをやってみたいという人がいるんですよ。例えば、空き家があるよとか、こういうものがあるよということを発信していくことができれば、来る人がいるんですよ。我々の目線で考えると、こんな所誰が来るという話で終わっちゃうじゃないですか。ただ、違うのですよ。この状況を発信する。定住を促進する組織があるんですよ。そういうことが発信できれば、それを良いと思う人が必ずどこかに居る可能性があるという事をこの間教えてもらった。諦めないで発信していくことが大事だと思います。

**【川上委員】**

内山委員のところは外から人を連れて来られた。そういうノウハウを広められるとよいですね。

**【松縄委員】**

息子と話していたのですが、例えばイオンに行く時に、直江津の人や高田の人は渋滞の中を行かなくてはならないけど、私達は裏の方からスッと入っていける。渋滞にはまらないで行けるからよいねと、話していたのです。

**【古川会長】**

その辺の前向きな意見もある。現状を諦めないでプラス思考で捉えれば良い話も出て来るかと思っています。その辺を次に繋げて行きたいと思っています。

そういったことも含めてアンケートの検討材料になりそうな内容がありましたら、皆さん出していただきたいと思っています。

6 閉会

**【古川会長】**

本日本日予定していた内容は全て終わりました。今日の会議はこれで終了したいと思います。大変ご苦勞様でした。

10 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-5111 (内線 1449、1547)

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

11 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。